

12 高齢者進行肺癌治療における包括的機能評価法の意義についての検討

塚田 裕子・杵渕 進一・手塚 貴文
横山 晶

県立がんセンター新潟病院内科

【背景】高齢者包括的機能評価法 (CGA) は、高齢者の慢性疾患において死亡率減少・入院日数短縮など有用性が示されている。

【目的】高齢者進行肺癌治療における CGA の有用性を検討する。

【対象と方法】当科入院の70歳以上進行肺癌初回治療例。評価は基本的 ADL・手段的 ADL (IADL)・MMSE・GDS を用い、治療開始時に医師/看護師が実施、CGA スコアと治療コンプライアンス・重篤な有害事象発現との関係を検討する。

【結果】2005年2月までに52例に評価を実施。年齢は70-74/75歳以上が各26例。PSは0-1/2が46/6例。75歳以上群ではPS不良・ADL/IADL依存・うつ状態例の比率が高かった。PS 0-1でも基本的 ADL/IADL 依存、認知機能障害、うつ状態例が存在した。重篤な有害事象の頻度はPS 2で有意に高く、ADL 依存・うつ状態例でも高い傾向がみられた。

13 進行食道癌に対するネダプラチン+ドセタキセル療法の検討

秋山 修宏・加藤 俊幸・本山 展隆
新井 太・船越 和博・稲吉 潤
井上 聡

県立がんセンター新潟病院内科

切除不能進行食道癌に対し放射線同時併用化学療法 (以下 CRT) は第一選択の治療法と考えられている。CRTによりCRに至り長期生存が得られる症例が増加してきているが、CRT後一時的に腫瘍が縮小あるいは消失した後、再発再燃を生じる症例も少なからず存在する。それらのCRT後の再発再燃例に対する有効な治療法が確立されていないのが現状であるが、今回ネダプラチン (CDGP) +ドセタキセル (DOC) 療法が奏功を

示した症例を認めたので報告する。

対象はCRT後の再発、再燃例6例で治療法はCDGP 40mg/m²、DOC 30mg/m²をbiweeklyに投与し、可能な限り継続した。1例に腫瘍からの出血を認めたが有害事象は軽微な症例が多かった。6例中3例 (50.0%) にPRの効果を認め、CRT後の再燃例よりも再発例に奏功を示し、CDGP + DOC 療法はCRT後の再発症例に有効な治療法と思われた。

14 胸部食道癌放射線化学療法後のサルベージ手術の治療成績

神田 達夫・小杉 伸一・大橋 学
榎本 剛彦・牧野 成人・田邊 匡
鈴木 力*・高山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野
新潟大学医学部保健学科*

【目的】胸部食道癌患者における放射線化学療法 (CRT) 後のサルベージ手術の安全性と有用性を明らかにする。

【患者と方法】2005年5月までに当院でサルベージ食道切除が行われた胸部食道癌患者13名を診療録に基き遡及的に分析。

【結果】9名に開胸切除が、4名に経裂孔の切除が行われた。肉眼的完全切除は11名で達成されたが、うち2名で腫瘍剥離断端が陽性であった。ICU在室期間の中央値は3日 (0-13日)、術後入院期間は40日 (16-69日) であった。術後合併症を7名に認めた。在院死亡は1名であった。全13例の累積2年生存率は62%。肉眼的に不完全切除となった2名はともに7か月で原病死したが、病理学的CRの1名と粘膜内の限局性遺残であった1名で4年以上の生存を認めている。

【結語】CRT後のサルベージ手術は通常食道癌手術に比べて不完全切除率が高い可能性がある。CRT後の少量遺残例では長期生存が期待できる。